

第3回新博物館のあり方部会 検討の進め方

第4回三重県文化審議会(11/20)において、「新博物館のあり方について(素案)」をとりまとめるため、今回と第4回の部会において検討を進めます。

今回は、先般にまとめた「博物館のあり方に関する基本的な考え方」の内容について、検討を深めるとともに、「今後検討すべき事項」とした事項の整理・検討を行います。

論点1 「博物館のあり方に関する基本的な考え方」の検討について

<説明>

「基本的な考え方」にまとめられた、県立博物館の基本的な性格や機能に関して、主に県立博物館のコンセプトにも関わる以下の項目について、検討を進めます。

県民利用重視型の性格について

「基本的な考え方」では、県民の日常的な利用と参画を重視した博物館を目指す内容となっていますが、県民が「みえ」を知る場であるとともに、三重を訪れる県外の人にも「みえ」を知ってもらう場となるべきと考えられます。ただし、県民の利用重視の考え方に立った場合、観光集客型の観光地化した利用までは目的とすべきではないと思われませんが、そのような考え方でよろしいでしょうか。

県民参画のあり方について

県民参画のあり方としては、博物館への来館や行事への参加がきっかけとなり、サポートスタッフなどとして博物館活動に参画し、さらに、「県民学芸員」として、博物館と協働して活動するようなイメージが考えられます。地域組織やNPOなどの団体、企業などの参画もその一環として捉えることができます。

また博物館の計画段階や運営の評価などへの参画も促進すべきと考えられます。県民や県内の諸団体の参画を活発にするためには、どのような取組が必要でしょうか。

子ども(次世代)への対応について(学校連携も含めて)

次世代を担う子どもたちに対して、県立博物館は、具体的にどのような役割を果たし、どのような取組を行うべきでしょうか。

また、生涯学習を含めた総合的な文化施策を推進するために、来年度より、県立の博物館・美術館・図書館等の運営を含めた県教育委員会の生涯学習業務が知事部局に移管されることになりました。これからの県立博物館には、地域の社会や文化と学校教育をつなげるなどの役割の強化が期待されると思われませんが、子どもへの対応として、どのような役割や機能を発揮していくべきでしょうか。

県立博物館の展示機能について

これまでの検討の中で、大規模で固定的な常設展示エリアと展覧会等を開催する企画展示エリアからなる従来の博物館展示手法の見直しが検討課題としてあげられ、固定的ではなく展示替えが容易にできる展示の仕組みなどの意見が出されています。

これからの県立博物館の常設展示エリアや企画展示エリアは、具体的にどのような関係や内容、規模、そして利用のされ方を想定すべきでしょうか。

公文書館機能について（閲覧レファレンス機能との関連で）

公文書館で扱われる古文書や公文書などの歴史資料は、博物館資料と資料的な価値という点で違いはありません。一方、活動という側面では、博物館では展示が中心、公文書館では資料の閲覧レファレンス機能が中心に行われています。

博物館資料を幅広く活用するため、閲覧レファレンス機能を重要な機能として位置付けた「基本的な考え方」に照らして考えた場合、それぞれ独立した施設としての他に、建物に隣接・併設、あるいは長野県立歴史館のような一体化など、博物館と公文書館の関係をどのように捉えることができるでしょうか。

また、収蔵、展示、閲覧レファレンス、学芸員の業務などの関係についても、収蔵庫エリアと閲覧レファレンスエリアは隣接、または学芸員の業務エリアは閲覧レファレンスとの直結、などさまざまな考え方ができると考えられます。

それぞれの具体的な内容や規模、エリア的な位置関係についてどのようにすべきでしょうか。

その他、博物館機能を発揮するために必要なものについて

「基本的な考え方」に則した役割や機能を発揮するためには、具体的に、どのような人材、設備などが必要になるでしょうか。

例えば、学校の見学に積極的に対応するための人材や設備としては、サポートスタッフの活動やミュージアムティーチャー(学校教員)の配置、学校の教育課程に対応した展示や資料保存の大切さを知ることができる収蔵展示、体験型の展示、レクチャー用の部屋や雨天時の昼食エリアの設定などが考えられると思われれます。

サポートスタッフなど県民参画型の活動には、どのようなエリアや設備が必要となるでしょうか。また県内の博物館ネットワークの実現のためにはどのような、人材や設備が必要となるでしょうか。

論点2 「今後検討すべき事項」の整理・検討について

<説明>

「博物館のあり方に関する基本的な考え方」で、「今後検討すべき事項」とした項目について、整理・確認を行います。検討は、主に第4回部会において行います。

- (1) 他の拠点との連携（図書館・美術館・市町の施設など）
県立博物館は、図書館・美術館・市町の施設等とどのような連携をすべきでしょうか。またどのような役割分担ができるでしょうか。
- (2) 学芸員等必要なスタッフ体制構築の方策（学校や大学との連携等）
学芸員のスタッフ体制を充実させるために、学校や大学などどのように連携すべきでしょうか。
- (3) 組織および運営形態の考え方
博物館活動を進めるためには、学芸員をはじめどのような組織やその規模が必要となるでしょうか。またどのような、運営の形態をとるべきでしょうか。
- (4) 建物構成や規模の考え方
県立博物館の機能を果たすためには、展示・閲覧レファレンス・収蔵・県民参画・学校利用などについて、どのような建物構成や規模が必要でしょうか。
- (5) 設置場所の考え方
県立博物館の使命やコンセプト、役割・機能を実現するためには、どのような設置場所の条件が考えられるでしょうか。
- (6) 財源、資金等の考え方
県立博物館の設立・運営のために、どのような財源や資金の考え方ができるでしょうか。